



●アメリカの人気女流ギタリスト、  
ミュリエル・アンダーソン

ギタリストのミュリエル・アンダーソンは、フィンガースタイルでグラミー賞を取ったチェット・アトキンスと、クラシックギタリストのクリストファー・パークニングに師事した。一昨年、アメリカのアコースティックギター誌の読者投票で「好きなクラシックギタリスト」に選ばれ、そのうえ女性として初めて、全米ギター・ピッキング・チャンピオンシップのチャンピオンになるという栄誉も得た。

イリノイ州ダウナーズグローブで育ち、現在テネシー州ナッシュビルに住んでいるアンダーソンは、音楽一家の出身で、母はピアノ教師、祖父はジョン・フィリップ・スーザ軍楽隊でサクソフォンを吹いていた。スーザ(1854-1932)は、行進曲で有名なアメリカの作曲家である。

アンダーソンは、フォークとブルグラス・ギターを学んだ後、クラシックギターを、シカゴのデポール大学でレオン・ボルコウスキーに、モンタナ州ボーズマンでクリストファー・パークニングに師事した。「パークニングが演奏した〈アラビア風綺想曲〉をラジオで初めて聴いた私は、クラシックギターが持っている情緒と音色とフレー징の表現力の大きさを、瞬時に感じました。そしてクラシックギターが好きになった私には、まったく新しい世界が開かれ、特にスペインの作曲家を知ることになったのです」

●ティエラ・ネグラとの全米ツアー

昨年、アンダーソンは、“黒い土”という意味のティエラ・ネグラ(Tierra Negra)というグループのツアーに参加した。このグループはドイツ人のフラメンコデュオで、メンバーはローギ・エバートとレオ・ハインリッヒの2人。彼らと共作したCDのタイトルは〈ティエラ・ネグラとミュリエル・アンダーソンのフラメンコ新世界〉である。アンダーソンがこのデュオと初めて会ったのは、約7年前ニュルンベルク・ギター・フェスティバルでのことで、当時彼らは自身で作ったギターを使っていた。エバートとハインリッヒは、ギター製作者であり、演奏家でもある。アンダーソンはマイアミ在住の楽器製作者パリス・バンチェッティ Paris Banchetti が製作したクラシックギターを使用している。彼女がこの楽器に出会ったのは、ニューポート・ギター・フェスティバルの展示会だった。ロードアイランドで始まったこのニューポート・ギター・フェスティバルは、その後フロリダに移り、今では世界中から集まってくるギター製作者のための毎年恒例のショーケースになっている。

アンダーソンと初めて全米ツアーをして各地を見てきたティエラ・ネグラの2人にアメリカの印象を聞いたところ、「ガソリンの値段の安さかな！満タンにすればアメリカのどこにでも行けるよ！」と言った。このグループは、今年3月に欧州、次いで5月と6月に全米を

ツアーすることになっている。アンダーソンとティエラ・ネグラは、新しいアルバムも計画中で、2011年中にコンサートDVDをリリースする予定である。

ステージでは、ティエラ・ネグラ・デュオはBバンド・ピックアップを使い、アンダーソンはシーモア・ダンカン・Dタール/エキノクス・ピックアップを使っている。レコーディングの際は、アンダーソンは手作りのディーケー・ブラウナー・ステレオマイクを使っている。グループは全員GHS弦を使用している。「私は自分の名前を冠したセットで、6弦が他よりも少しハイテンションなミディアム・ハイテンションを使っています」とアンダーソンは言う。「高音弦にはチタンが配合されているので、少し張りが強く、3弦の響きがクリアーになっています。高音弦はまた、弦の端に小さな玉があり、弦交換の際に抜けないようになっています」

ティエラ・ネグラ・デュオのフラメンコギターには、GHSのラクラシック・ライト・テンション弦が使われている。エバートによると「イントネーションに問題がないので、ライブ録音が可能です」とのこと。

●ハープギターを用いたニューアルバム

アンダーソンは、最近新しいアルバムを2枚完成させた。1枚はティエラ・ネグラのメンバーであるレオ・ハイン



ハープギターを弾くアンダーソン

リッヒが最近父親になったので、子守唄アルバムをサプライズ・ギフトとして作った。アンダーソンは、ベースのピクター・ウートン、ギタリストのフィル・キーギー、(グラミー賞を取ったクリスチャン・ボークル・グループであるテイク・シックスのリードシンガー) マーク・キップルと組んで、子供のためのアルバムを録音した。このアルバムは個人的な贈り物なので2枚しか製作していないが、子供を眠りに誘うように徐々に静かになっていくというもの。アンダーソンは、寝物語と音楽をセットにした『ピロータウン』というタイトルの子供用CDを2011年に計画している。

アンダーソンのもう1枚のアルバムは『星空のハープギター』(Harp Guitar Under the Stars)というタイトルのCDで、彼女がハープギターのデュオ用に作曲した作品を、ハープギターの巨匠であるオレゴン州ポートランドのジョン・ドーンとのデュオで演奏したものを集めている。このアルバムには、画家ヴィンセント・ヴァン・ゴッホを称えてドン・マククリーンが作曲した〈ヴィンセント〉と、メイソン・ウィリアムズ作曲の〈クラシカル・ガス〉の2曲が含まれている(本号の添付楽譜に収録曲の〈アボカド・メヌエット〉を掲載)。アンダーソンが初めてハープギターに興味を持ったのは、ギターとチェロのための室内楽曲を作曲して5、6年経ってからのこと。ギターの6弦のEよりも低い音を求めていた彼女が、ハープギターなら、それが可能であることを知ったときだ。祖父がハープギターの発明家で、グラミー賞にノミネートされたことのあるギタリスト

のマイケル・ヘッジスが、アンダーソンと組んで〈アメリカのギターとマンドリン〉という彼の著書のためにハープギター音楽を録音した。残念ながら、ヘッジスは1997年に交通事故で亡くなった。

ハープギターの低音弦はスチール弦で、どんな調にも調弦して演奏できる。ほとんどのハープギターが、航空機で運ぶには大きすぎることに気がついたアンダーソンは、ナイロン製の特製の低音弦を使った小型のハープギターをジェフ・エリオットに設計させ、マイケル・ドゥーランに特注して作らせた。アンダーソンのハープギターは、彼女のCD『Journey Through Time』で聴くこと

ができる。

### ●指導、執筆、作曲……アンダーソンの演奏以外の活動

アンダーソンは、最近ニューヨークのサム・アッシュ・ストアで入場無料のギターレッスンとデモンストレーションを行なった。ここはタイムズスクエアに近い48番街のマニー・ギター・ショップがあった場所である。彼女はクラシックギターでハワイの子守唄を演奏した。伴奏をしたのはラップ・スチール・ギターのギタリスト、ブルース・アーノルドだった。テクニックを駆使して、多彩なギターのハーモニックスを響か



ミュリエル・アンダーソン

せ、硬くした右手でハンマーのように弦を打ち下ろすことによってバンジョーの音を出す方法などを実演して見せた。

彼女は、アメリカの学校における音楽教育の無料化を推進している教育プログラム Guitarsintheclass.org の責任者であるクリス・ヒルに対して賞状と6,000米ドルの小切手を寄贈した。

アンダーソンは、オールスター・ギター・ナイトと銘打った非常に有名なコンサートを年2回開催し、名誉ある音楽教育プログラムを推進するための資金集めに協力している。テネシー州ナッシュビルで開かれた直近のオール

スター・ギター・ナイトでは、ナッシュビルの市長がカントリー・ミュージックでグラミー賞を獲得した歌手のエンミロウ・ハリスを紹介し、ギター・プレーヤー誌がエルヴィス・プレスリーのバンドでギターを弾いていたジェイムス・バートンに賞を贈った。

アンダーソンは日本のアコースティック・ギター・マガジンに教育用コラムを書いているが、東京、横浜、九州でツアーを行なったことがある。「私は日本が大好きです」と彼女は言う。「私がショーで演奏していたら、男性が近づいてきて私に、“あなたの作品を知るまで、私は自分の手で演奏していました。これからは自分のハートで弾きます”と言うのです。私は、彼の言葉に非常に感動しました。音楽を深く理解する日本人々から、このようなコメントをいただきました。私は日本文化の美しさを知ったので、ティエラ・ネグラと共に、日本に戻れることを願っています」。

ギターとチェロのために作曲した作品が、ギターとヴァイオラでも美しく響くことに自信を得たアンダーソンは、クラシック・ギタリストたちにアンサンブルを奨励している。彼女は、チェロ奏者のジュリア・アダムスと〈ギターとチェロのためのニュー・クラシックス〉というタイトルのCDをリリースした。アンダーソンの作品は、オンラインで販売されており、彼女のウェブサイトからダウンロードできる。作品ごとに、初心者用、中級者用、上級者用と能力に応じたバージョンが作られているので、演奏者の能力にふさわしいバージョンを選んで演奏できるようになっている。「音楽を、すぐに共有できるというのは、素晴らしいことです。私の作品を人々が共有し、演奏できるようにすることは、とても重要なことだと思っています」と彼女は語った。

詳しくはホームページにアクセスされたい。

<http://www.murielanderson.com>

<http://www.youtube.com/watch?v=wPfc0DmAvDo>

<http://www.youtube.com/watch?v=9cQ0AcEoZts>

# Avocado Minuet

アボカド・メヌエツト

Solo guitar version, adapted from two harp guitars on  
"Harp Guitars Under The Stars" CD.

Muriel ANDERSON

The musical score for 'Avocado Minuet' is presented in a single system with seven staves. The notation is in treble clef with a 7/8 time signature. The key signature has one sharp (F#). The score includes a variety of rhythmic patterns, including eighth and sixteenth notes, and rests. Fingerings are indicated by numbers 1, 2, 3, and 4. There are also some slurs and accents. The piece concludes with a final cadence.

Φ.12

First staff of music, featuring a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The melody consists of eighth and sixteenth notes, with a prominent trill-like figure. The bass line is primarily composed of quarter notes and rests.

Second staff of music, continuing the melody and bass line from the first staff. It includes a measure with a double bar line and a repeat sign.

Third staff of music, featuring a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The melody continues with eighth and sixteenth notes, and the bass line includes some chords and rests.

Fourth staff of music, featuring a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The melody includes a triplet of eighth notes and a measure with a double bar line and a repeat sign.

Fifth staff of music, featuring a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The melody continues with eighth and sixteenth notes, and the bass line includes some chords and rests.

Sixth staff of music, featuring a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The melody continues with eighth and sixteenth notes, and the bass line includes some chords and rests.

Seventh staff of music, featuring a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The melody includes a measure with a double bar line and a repeat sign, and the bass line includes some chords and rests.

4 1

7

1 4

2

3 3 3

3 3 3

8va